



立命館大学法学部

学生証番号		氏名	
-------	--	----	--

2014年度 立命館大学 法学部

2014年度入学生用

## 法学部長からのメッセージ

### 法学部の学習と「学びマップ」

私たちは、学生諸君が大学時代を通じて、それぞれの目標を目指して大いに活躍することを期待すると同時に、社会に出てからも立命館大学法学部の学生であったときに、大いに成長できた実感することを念願しています。日々の講義や課外活動、大学での多種多様な行事、催しに参加し、私たち教職員のみならず多くの友人と語らう中で、学問を中心にして、その旺盛な成長力を示して欲しいと考えています。

「学びマップ」は、その手助けをするものであり、学生諸君が自分の進路を定めて、思い切り頑張れるように配慮しようとするものでもあります。もちろん、まだ明確に進路が定まらない諸君もたくさんいることでしょう。迷い、いろいろ失敗を重ねながら、自分の進路を見出しに行くこともよくあることで、それはそれで貴重な経験です。そのような場合でも、一歩でも、二歩でも踏み出して行って欲しいと思います。失敗があったとしても、それも記録して、将来に生かすことができます。「学びマップ」は、各人が作って行くものであり、誰一人、同じマップはありません。自らの道を、自らの「学びマップ」を作り込んで、大切な自分自身のマップを作り上げて欲しいと願っています。そのような1人1人の力が、本学法学部の重要な個性となり、将来へと発展する力になります。互いに磨き合えるよう、皆さんの弛まぬ努力を心から期待しています。

法学部が独自に作成した「学びマップ」は、大きく2つの部分から成り立っています。前半は、主として法学部における学び方を説明しています。それは、皆さんが法学部生として、何をどのように学んでいくのか、その段階を分かり易く解説するものです。これに対して、後半は、自ら作って行く部分です。皆さんが自らの学習の目標や履歴を記録しつつ、自身の成長しているところやまだ不足している部分を書きながら確認し、今の自分を見つめ直して、今後の進路を考える手掛かりとするものです。

「学びマップ」は、節目ごとに、自分の学習方針・計画を確認し、あるいは作り直しながら、自身の成長を考える機会を提供しています。1回生、2回生、3回生と、順を追って学びの選択シートを作成し、提出してもらいます。それによって、ゼミ（専門演習）の選択や進路の選択を自ら判断して行くこととなります。その時々真剣に考え、このシートを作成することを通じて、自らの「今」と「将来」を自然に考えることとなります。他方で、これらのシートの作成によりそれまでの自分の「過去」の決算をもすることとなります。これを大いに活用して、皆さんが法学部学生として自らの大学生活をよりいっそう充実させて下さい。

立命館大学法学部長 竹濱 修

## CONTENTS

1 「学びマップ」の作り方	p.2
2 法学部のカリキュラムの構造（専門科目を中心として）	p.4
3 専門化プログラムについて	p.6
① 法学科（特修除く）専門化プログラムの紹介	p.6
② 司法特修 専門化プログラムの紹介	p.8
③ 公務行政特修 専門化プログラムの紹介	p.8
④ 国際法務特修 専門化プログラムの紹介	p.9
4 「学びマップ」と作成のためのツール	p.11
① 4年間の学びマップ	p.12
② 1回生の学びマップ	p.14
③ 2回生の学びマップ	p.16
④ 3回生の学びマップ	p.18
⑤ 4回生の学びマップ	p.20
5 学びの選択	p.22
① 学びの選択①（学生生活目標設定シート）	p.23
② 学びの選択②（キャリア形成シート）	p.24
③ 学びの選択③（専門化プログラム選択）	p.26
④ 学びの選択④（専門演習志望理由書）	p.28
⑤ 学びの選択⑤（キャリアシート）	p.30

### ～法学部の教学理念～

#### <教育研究上の目的>

法学および政治学の教育研究を通じて、法および政治に関わる社会現象の多面的な理解を礎として主体的に進路を切り拓き、社会の様々な分野で平和と民主主義の実現に貢献できる人を育成する。

#### <教育目標>

##### ■ 主として知識の獲得に関わる目標

- ① 日々生起する個々の法現象および政治現象における問題の所在を的確に把握しうるための法学および政治学の知識および思考方法を身に付けること。
- ② 法学および政治学の諸分野のうち、自らの問題関心を深め、自らの進路を切り拓くための専門分野に関して、知識とそれを応用する能力を身に付けること。

##### ■ 主としてものの考え方や判断能力に関わる目標

- ③ 専門性の枠にとらわれない広い視野を背景として、自らと異なる文化的背景、信条、意見をもつ他者とコミュニケーションを図り、その意見を尊重しつつ、主体的に自らの意見をまとめ述べるができること。

##### ■ 主として意欲や態度に関わる目標

- ④ 「平和と民主主義」の理念に照らして法化社会における規範のあり方を主体的に考え、それを実践に移すことができること。
- ⑤ 自らの適性を客観的に見極め、自らの進路を主体的に切り拓き、自ら設定した目標に向かって主体的かつ系統的に学習する意欲と方法を身に付けること。

##### ■ 主としてコミュニケーション能力や文章能力に関わる目標

- ⑥ 論理的で正確な日本語を用いて、自らの意見を発表し、討論し、文章化する能力を身に付けること。
- ⑦ 外国語による基礎的コミュニケーション能力を身に付け、専門に関わるテーマについて外国語で理解し、討論する意欲をもつこと。

# 1 「学びマップ」の作り方

## ● 2つの問いかけ

今の自分の気持ちを、できるだけ先入観を排して観察してみましょう。皆さんは何のために立命館大学法学部に入学したのでしょうか。

もちろん、受験の段階から、法曹になりたいといった明確な進路目標をもって入学してきた方もおられるでしょう。他方、何となく「つぶしがききそうだ」といった、漠然とした動機で来られた方も少なからずおられるでしょう。中には、自分の学力との関係で、ここしか受け入れてくれるところがなかったという方もおられるでしょう。

自分の入学の動機はとても人にほめられたものではないと思った方もいるかもしれません。しかし、安心してください。どんな動機で来られた方であっても、出発点は同じです。他方、自分の入学の動機に確信をもって入る方は、とても結構なことではあるのですが、再度、自分を振り返ってみることも大切なことだと思います。

これから先4年間、またはそれ以上の年数をかけて、皆さんは、2つの問いかけに対する答えを出すことを余儀なくされます。ひとつは「自分は何によって社会に貢献しようとするのか」という問いかけ、もうひとつは「自分とは何者なのか」という問いかけです。ほとんどの方は、大学を卒業すると社会に出て働くか、大学院に進学しますが、どんな進路を選択するにせよ、この2つの問いかけから逃げることはできません。この点は大事なので、もう少し詳しく説明しようと思います。

## ● 自分は何によって社会に貢献しようとするのか

どの大学のどの学部にも、研究教育を通じてどんな人を育てたいのか、についての目標があります。立命館大学法学部は、「法学および政治学の教育研究を通じて、法および政治に関わる社会現象の多面的な理解を礎として主体的に進路を切り拓き、社会の様々な分野で平和と民主主義の実現に貢献できる人間を育成する」ことを目標と定めています。抽象的で意味がよく分からないという方でも、何らかの意味で社会に貢献できる人を育てたいのだということぐらいは分かってもらえると思います。社会に貢献するための力のうち大学の法学部でなければ身につけられない力というのは現に存在するし、私たちのカリキュラムはそのような力を皆さんに身につけさせることができると、私たち立命館大学法学部で働く教職員は確信しています。

しかし、カリキュラムを整え、それに沿って教職員が教育研究とその環境づくりに努力するだけでは、先に掲げた私たちの目標は達成されません。何より必要なのは、皆さん一人ひとりが何によって社会に貢献しようとするのかを考え抜き、そのためにどのような力を身につけるべきかを自覚することです。このことは、皆さんの進路選択の問題に直結します。

入学したての皆さんのほとんどは、漠然とした進路イメージしかもっていないでしょう。しかし、心配する必要はありません。大学での学びは、皆さんの漠然とした進路イメージを具体化するプロセスでもあります。「自分は何によって社会に貢献しようとするのか」という問いかけに対する答えは、学びの中で具体化し、練り上げてゆけばよいのです。ただ、その際に大切なことは、「自分とは何者なのか」という、もうひとつの問いかけに真正面から向き合うことなのです。

## ● 自分とは何者なのか

「自分とは何者なのか」という問いかけに対しては、性別、国籍のように客観的に識別できる属性や、学力のように比較的客観的に測定できる能力のほかに、優柔不断であるとか大雑把であるとかいった性格の要素をもって答えることもできます。しかし、ここでは、そのような個別の評価要素に還元できない、その人に対する総合的な評価が問われているのです。今はピンと来ない人が多いでしょうが、就職活動の際にまさに「自分とは何者なのか」という問いを厳しく突きつけられる人が多いのです。エントリー・シートや面接で自分の長所をいかにアピールしても、どの会社からも全く受け入れてもらえず、自分というものが全面的に否定されたような絶望的な気持ちになる人が、残念ながら、毎年少なからずいます。そうならないために、常に「自分とは何者なのか」という問いから逃げない姿勢が求められるのです。

注意が必要なのは、ここでいう「自分」とは決して固定的なものではなく、その人の成長次第で常に変わりうる存在だということです。新たな「自分」の開拓に伴って、従来想定していた進路を変更する人も当然出てくるでしょう。実は、大学での学問には、「自分」を変える契機が秘められています。大学の授業から衝撃を受けて、従来考えていた進路を変更した人はいくらでもいます。大学の授業以外でも、課外活動やアルバイト等で同様の経験をする人があるでしょう。

もちろん、私たち教職員も、途中で進路を変更すること自体は否定しません。ただ、その際に大切なのは、自分の何が変わったのか、単に眼前の困難から逃れたいという動機による進路変更でないかどうか、を自問自答してみることです。

## ● 主体的な学びと「学びマップ」

以上要するに、皆さんの大学での学びが真に実を結ぶためには、「何によって社会に貢献しようとするのか」、「自分とは何者なのか」を常に自問自答する姿勢が必要です。そして、これらのこととの関わりの中で、大学の授業を自ら取捨選択することが望まれます。これこそが、「主体的に学ぶ」ということではないでしょうか。「法学部学びマップ」は、大学で主体的に学ぶための道具として皆さんに活用してもらうために作ったのです。

## ● 「学びマップ」利用の手引きー「自分」史のすすめ

「学びマップ」は実際には、「manaba+R」の「学びマップ」コース上で入力し、皆さんに提出してもらうことになります。本冊子は「学びマップ」の全体像が見えるように作られています。各ページの記入欄は、下書き用として使用してください。

本冊子には、[2] 法学部での4年間のおおよそのカリキュラムの構造(4頁)、[3] 専門化プログラムの概要の説明(6～9頁)の後に、[4] 「学びマップ」(11～21頁)と [5] 「学びの選択」(22～31頁)が掲載されています。

皆さんには、まず、[2]と[3]をひととおり読んだ後に、「4年間の学びマップ」(12～13頁)をひらいてもらいたいと思います。そこに、4年後に自分がどのようになっていたのかを(現時点での漠然としたものでもかまいません。)入力し、最終目標に向かって各回生で達成したいと考える、学修面その他の到達目標を入力してもらいたいと思います。次に、1回生から4回生の学びマップ(14～21頁)をひらいてください。各回生の初めに、その年度の目標・計画・課題を入力してみてください。そして、各回生の終りに1年間を振り返って、当初の目標がそれだけ達成できたか、あるいは、当初とは異なる事柄に興味関心を抱くようになったために進路変更を考えるに至った場合は、その旨を「振り返り欄」に入力してみてください。

なお、立命館大学法学部では、大学生活の節目ごとに、皆さんに進路イメージを具体化するきっかけとしてもらうために、「学びの選択」というシートを提出してもらうことになっています。各シートの提出時期は、下の表にあるとおりです。時期がきたら、入力してもらい、担当教員もしくは事務室に提出してもらう予定です(詳細は、別途案内します。)。これは、皆さんに進路への自覚を促すだけでなく、教員による個人指導の資料としても活用する予定です。あらかじめ「学びマップ」の回生ごとの目標記入欄に入力しておけば、「学びの選択」の提出にも素早く対処できるでしょう。

法学部としては、専門化プログラムが始まる2回生後期を大学4年間での節目と考え、それまでに一定程度進路イメージを具体化してもらいたいと考えています。専門化プログラムの説明は、本冊子の[3](6～9頁)にあります。入学直後に読んでもピンと来ないかもしれません。大学の授業に慣れた頃にも、もう一度じっくり読んでほしいと思います。

このようにして、目標に向かって計画的に学修を進めるとともに、学びながら自分の進路イメージを具体化してゆく(当初の進路を変更することも含む。)プロセスを目に見える形にしておくことが重要なのです。こうすることによって、常に「自分とは何者なのか」という問いに向き合うことができるからです。こうして、卒業時に、「学びマップ」は「自分」史として完成されるのです。つまり、「学びマップ」とは、「使う」というより、むしろ「作る」ものなのです。

私たち教職員も、皆さんの「自分」史に啓発されることを期待しているところです。実は、私たち教職員自身、自分を高めることができると考えるからこそ、皆さんの「自分」史作りを全力で応援したいと思うのです。ともに実りある大学生活を送りましょう。

提出時期(予定)	学びの選択シート	提出方法(予定)
1回生 4月	学びの選択①(学生生活目標設定シート)	入力後、印刷して、写真を貼付した上で提出
1回生 11月	学びの選択②(キャリア形成シート)	入力後、提出
2回生 6月	学びの選択③(専門化プログラム選択) ※法学科(特修除く)のみ	入力後、提出
2回生 10月	学びの選択④(専門演習志望理由書)	入力後、提出
3回生 4月	学びの選択⑤(キャリアシート・左頁)	入力後、提出
3回生 10月	学びの選択⑥(キャリアシート・右頁)	入力後、提出

※あくまで予定であり、変更される場合があります。提出に関わる詳細は、別途ご案内します。

## 法学部のカリキュラムの構造 (専門科目を中心として)

### 1回生 前期 第1セメスター：法学部での学び方・学びの作法の修得

この時期は、幅広い視野を養う教養科目や外国語科目の履修が中心となりますが、法学部の専門科目としては、法学政治学へのスムーズな導入を図るための科目が中心となります。

具体的には、法学の学び方や基本的作法を身につけるための「基礎演習」、法学政治学の基礎知識を学ぶ「法学入門」「政治学入門」があります。

特に「基礎演習」は、この先4年間の自分の学習スタイルを確立するうえで重要であるだけでなく、仲間作り、学生自治の単位としても重要です。積極的に参加しましょう。

### 1回生 後期 第2セメスター：法学部的表現力の修得

この時期は、幅広い視野を養う教養科目や外国語科目の履修を中心としつつも、専門科目においては、憲法や民法に関する学部基礎科目が配置されるとともに、論理的文章作成能力等、学んだことを自分の言葉で説得的に表現する力の涵養を主眼とする中小規模クラスの科目が配置されることが特徴です。

中小規模クラスの専門科目のクラスは、基本的には「基礎演習」のクラスを引き継いで、前期に引き続いて学生生活の基礎単位となります。

なお、この時期に配置される学部基礎科目は、2回生以降の専門科目を履修するうえでの基礎となるので、しっかり履修しましょう。

### 2回生 前期 第3セメスター：進路イメージの具体化に向けた選択

この時期は、専門科目の履修等を通じて、ある程度自分の進路イメージを具体化させる時期と位置づけられます。より専門性の度合いを深める学部基礎科目が配置されるほか、皆さんの進路選択に直接に役立つようなキャリア形成科目や実習科目が配置されています。キャリア形成科目とは、具体的には、法学部での学びを職業に活かしておられるゲスト・スピーカーの方々のお話を中心とする科目です。

その他、全学副専攻、法学部英語副専攻、国際展開科目群など、多様な学びの機会が開かれています。

### 2回生 後期 第4セメスター：進路イメージに即して専門性を深める出発点

この時期は、自分が希望する進路に即して自分自身の専門性を深める出発点となります。この時期から、各自の興味関心に即して専門科目を体系的に履修するための「専門化プログラム」(⇒詳しくは、本冊子6~9頁)が始まります。3回生に履修するゼミ(「専門演習」)の選択の時期でもあります。

小集団科目としては、法学科(特修除く)では、ゼミ(3回生「専門演習」および4回生「卒業研究・論文」)への導入を図る「展開演習」、司法特修と公務行政特修では、より専門性を深めるためそれぞれ「ロースクールⅠ」、「公務行政演習Ⅰ」等が配置されます。

国際法務特修では、この時期は、演習形式の「国際法務演習Ⅰ」や各種の留学プログラムを利用した海外での学習の時期に当たります。

### 3回生 第5、第6セメスター：専門性の確立

3回生は、自分自身の専門性を確立するための時期です。自ら選択した「専門化プログラム」の科目群を中心に専門科目を履修するとともに、ゼミ(「専門演習」)で特定のテーマに絞った学習を行います。ゼミの内容は様々ですが、ここが法学部での学習のクライマックスといっても過言ではありません。

国際法務特修については、演習形式の「国際法務演習Ⅱ」において、留学で得られた問題意識をさらに深める形で自らの専門性を深めることもできます。司法特修と公務行政特修では、希望進路に即した専門性確立のため、それぞれ「ロースクールⅡ」、「公務行政演習Ⅱ」等が配置されます。

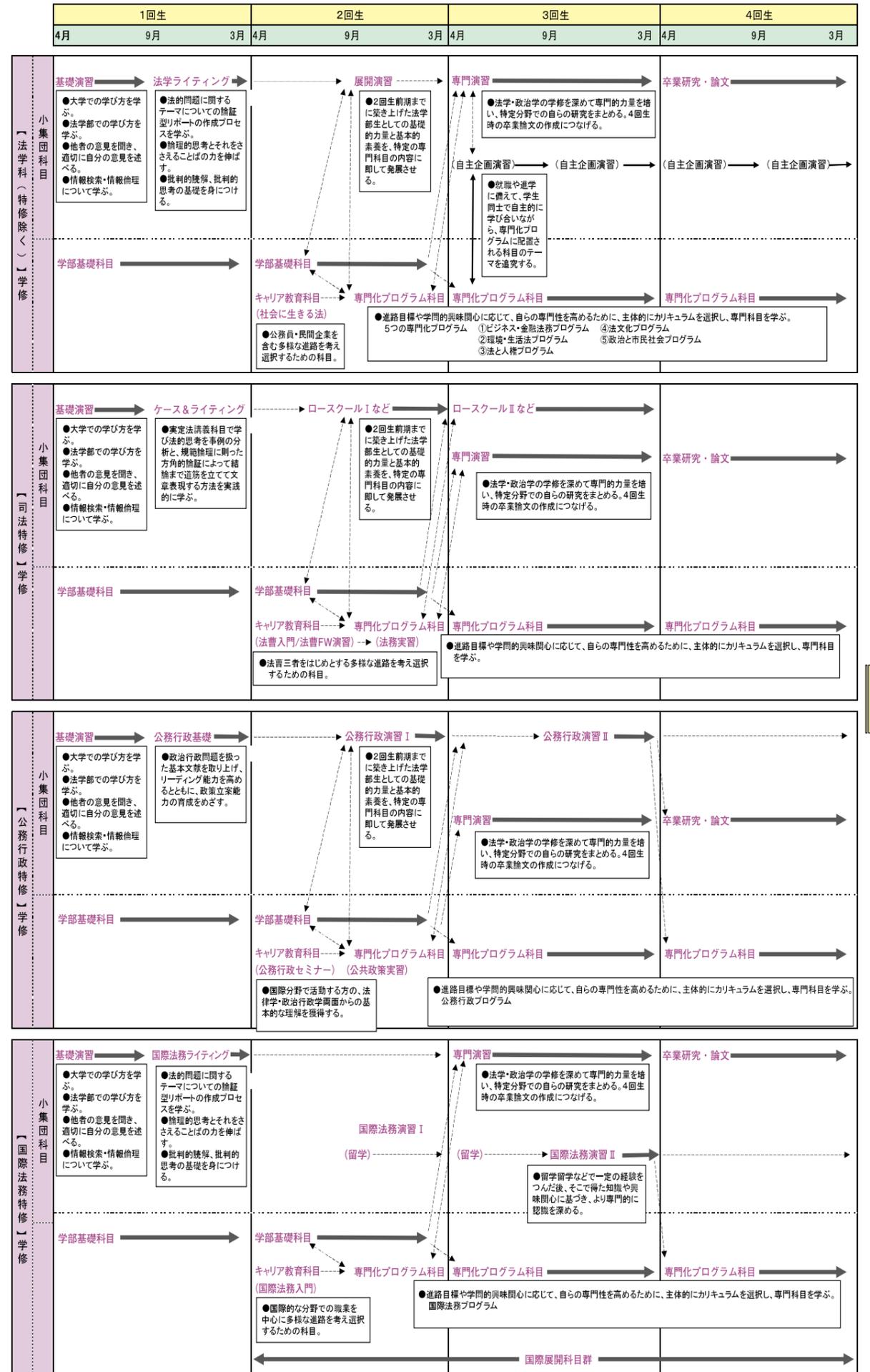
後期(第6セメスター)からは、徐々に就職活動のスケジュールが入ってくるのが予想されますが、ゼミを中心として自分自身の専門性を高めることを優先すべきでしょう。法学科(特修除く)については、「自主企画演習A・B」などで、学生同士が自主的に学びあうのもよいでしょう。

### 4回生 第7、第8セメスター：大学生生活の集大成

4回生は、いろいろな意味で大学生生活の集大成の時期です。引き続き「専門化プログラム」の科目群を中心に専門科目を履修するとともに「卒業研究・論文」において卒業論文をまとめます。とはいえ、前期(第7セメスター)は、就職活動、進学準備、公務員試験準備等に時間を割かれることが多いので、あらかじめそれを見越した計画的な科目履修が望まれます。

この時期は大学生生活の集大成であると同時に、大学院生として、あるいは社会人としての新たな学びの出発点でもあります。次の段階の学びに備えるためにも、卒業論文は是非書いてもらいたいと思います。

## 法学部における4年間の学びの流れ



専門化プログラムとは、法学政治学の専門知識を、各自の興味関心に即して系統的に学んでもらうために設定した科目群のことで、法学科（特修除く）に5つ、司法特修、公務行政特修、国際法務特修にそれぞれ1つずつあります。

法学も政治学も専門化が進んでいて、一般の方にとっては、それぞれの科目が相互にどのように関連しているのか（あるいは、全く無関係なのか）分かりにくくなっています。しかし、実際には、法や政治に関わる現象は、大学の複数の科目で教えられる複数の問題が複雑に絡み合う形で現れることが多いのです。そこで、私たちは、各自の興味関心に照らして複数の科目をまとめて履修することによりはじめて、大学での学びを現実と結びつけて理解することが可能となるのではないかと考えました。その結果が「専門化プログラム」なのです。

「専門化プログラム」には、具体的な進路イメージと結びついたように見えるものもあれば、そうでないものもありますが、いずれかのプログラムを選択したから必ず特定の進路にとって有利というわけではありません。大事なものは、皆さんが大学4年間で「私はこれを深く学んだ」といえる何かを、自分自身でつかむことです。「専門化プログラム」とは、皆さんがそこに到達するための手掛かりにすぎないのです。

## ① 法学科(特修除く) 専門化プログラムの紹介

### 〈1〉ビジネス・金融法務プログラム

民間企業一般もしくは銀行・保険・証券等、金融機関において必要とされる法律知識を習得し、応用可能な基本的能力を身につけることを目的とする専門化プログラムです。民間企業の活動は多様で、企業と消費者との取引や企業間の取引だけでなく、行政機関との間でのやりとりも含まれます。このような企業活動の拡がりに対応して、本プログラムには、民法、商法といった私法全般だけでなく、税法や経済法など、どちらかという公法要素の強い科目も含まれます。また、近年の企業活動はグローバル化しているので、国境をまたがる経済活動に固有の法的問題を扱う国際私法や国際取引法も含まれます。このように、本プログラムを選択することにより、実際の企業活動と関わらせながら、それに必要な法律知識を体系的に学ぶことが可能となります。本プログラムの選択に際しては、特に私法の基本である民法をしっかり理解しておくことが望まれます。



### 〈2〉環境・生活法プログラム

日常の市民生活において発生する、環境や家族などの法的問題に対処する基本的能力を身につけることを目的とする専門化プログラムです。日常生活において一般市民は、様々な「顔」を持っています。ある時には家族の一員としての「顔」、またある時には消費者、労働者としての「顔」を持っています。より包括的に言えば、生活者としての「顔」を持つともいえます。さらにまた、生活者としての立場から政策立案のあり方を監視し、それに参画する場合も想定できます。一般市民は、それぞれの「顔」に対応する固有の法的問題に直面しており、本プログラムは、それらに関わる科目を網羅しています。これらの問題に直接関わる職業に就きたい方だけでなく、身近な社会問題に即して法律知識を整理したい方全般にとって有益です。本プログラムの選択に際しては、特に憲法や民法の基本をしっかり身につけておくことが望まれます。



### 〈3〉法と人権プログラム

国家・行政権力との間で発生する市民の人権に係る法的問題について理解を深めるとともに、この分野の法の専門的知識を習得することを目的とする専門化プログラムです。社会秩序の維持や国民の福祉の向上等のために国や地方自治体の活動は不可欠ですが、それらの活動は公権力の行使を伴うので、日本国憲法で保障された基本的人権の侵害が起こりやすいことも確かです。このように、国や地方自治体との関係における人権保障の課題を扱う科目を網羅している点が、本プログラムの特徴です。本プログラムは、刑事司法の分野等、これら人権保障の課題に直接間接に関わる職業に就きたい方だけでなく、法学全般を通じて流れる人権保障の精神のエッセンスと具体的展開を学びたい方全般にとって有益です。本プログラムの選択に際しては、特に憲法や刑法の基本をしっかり身につけておくことが望まれます。



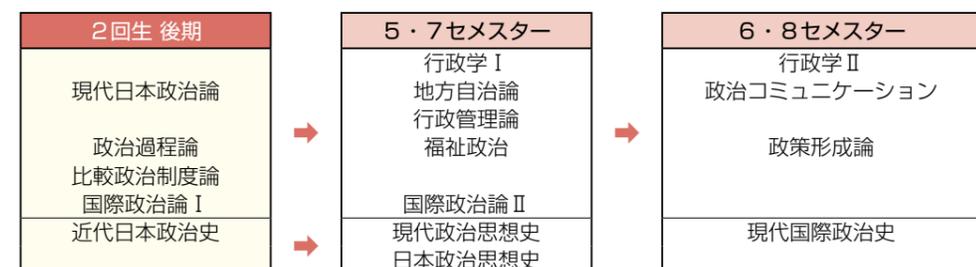
### 〈4〉法文化プログラム

現代の法律現象に対して歴史的・理論的観点から法に関する専門的理解を深めることを目的とする専門化プログラムです。法の存立基盤と法に対する人々の関わり方は、それ自体が社会科学、人文科学的研究の対象となります。本プログラムは、法そのものの歴史のほか、政治学、社会学、哲学といった他の学問分野の視点、諸外国の法制度の相互比較の視点等の幅広い視点から、法の存立基盤と法に対する人々の関わり方について認識を深めることができるような科目を配置しています。本プログラムは、研究者を志望される方だけでなく、物事の表面でなくその本質を根本から見極めたいという学問的志向をお持ちの方にとって有益です。本プログラムの選択に際しては、学部基礎科目をバランスよく履修して実定法科目の基礎をしっかり身につけるとともに、教養科目の履修等において幅広い視野を涵養するよう努めることが望まれます。



### 〈5〉政治と市民社会プログラム

市民社会の立場から、政府や国の活動を学び、選挙や権力の問題を学びます。また、これら選挙運動や権力の動向を報道するマスコミや、その政治への影響を学びます。さらに、欧米やアジアの政治に関する授業もあり、世界に対して広い視野を築くことも可能です。これら、政治学・行政学を学ぶことが、本専門化プログラムの目的です。法は、立法者である議員たちの討議や議会での採決の結果生まれるものですから、政治学や行政学を学ぶことは、法を学ぶ上でも、有効です。法を知り、政治を学び、社会を知るということを通じて、公務員はもとより、マスコミや、様々な分野の民間企業で活躍する上での基礎的力を身につけることができます。本プログラムの選択に際しては、政治学関連の学部基礎科目の履修と同時に、新聞やニュースを通じて現代政治行政の最新の動向に関心をもち続けることが望まれます。



## 2 司法特修 専門化プログラムの紹介

法曹（ここでは、弁護士・裁判官・検察官の三者のみを指します。）になるためには、原則として法科大学院に進学し、司法試験に合格しなければなりません。そのためには、司法試験科目になっている7つの法分野（憲法・行政法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）について、基本的知識を身につけるとともに、これを使って思考する力を養うことが求められます。そこで、本プログラムでは、この7つの法分野を中心に、豊富な数の講義科目が用意されています。2回生後期に開講される「ロースクールⅠ」などもそのひとつです。一方、演習科目では、3回生には「ロースクールⅡ」などが開講されます。これらの演習科目では、初学者向けの講義では立ち入ることのできなかつた判例や応用論点について、詳しく学ぶことができます。とくに「ロースクールⅡ」（原則として法科大学院の教員が担当します）では、毎回法科大学院さながらの緊張感あふれる授業が展開されます。演習科目の受講にあたっては、入念な予習が求められます。最初は少し大変だと感じるかもしれませんが、それだけ得るものも大きいといえます。



## 3 公務行政特修 専門化プログラムの紹介

この専門化プログラムは、公務員として社会に貢献するために必要な能力と知識を身につけることを目的とし、経済学、法学、政治学の三つの学問分野から構成されています。最も多く配置されているのは、政治学分野の科目です。これにより、国家活動と権力を歴史的、理論的に政治学の観点から学ぶことができるようになっています。政治学分野の科目を学ぶことによって社会を見る基本的な視点を養うとともに、後述する意味での、自己の目指す専門性と関連した法律科目を履修できるように工夫しましょう。

公務行政特修に所属する方の中には、将来の進路として「公務員」を志望する方が多いと思いますが、専門化プログラムの科目選択にあたって、単に「公務員」を志望するというレベルから一段上がって、どのような公務に携わりたいのか、自分の意識を明確にする必要があります。このプログラムにある法律科目は、「公務員」を目指すうえで必要最低限と考えられるものです。同じ「公務員」でも専門性の違いがあることを、ぜひ理解してもらいたいと思います。たとえば、政策立案に関わりたい方と法律を執行する職に就きたい方とは、求められる専門性が異なります。あなたの希望進路ではどんな法律科目を学んでおくべきでしょうか？このプログラムをベースにして、自分の進路に即した専門性を高める履修を工夫しましょう。

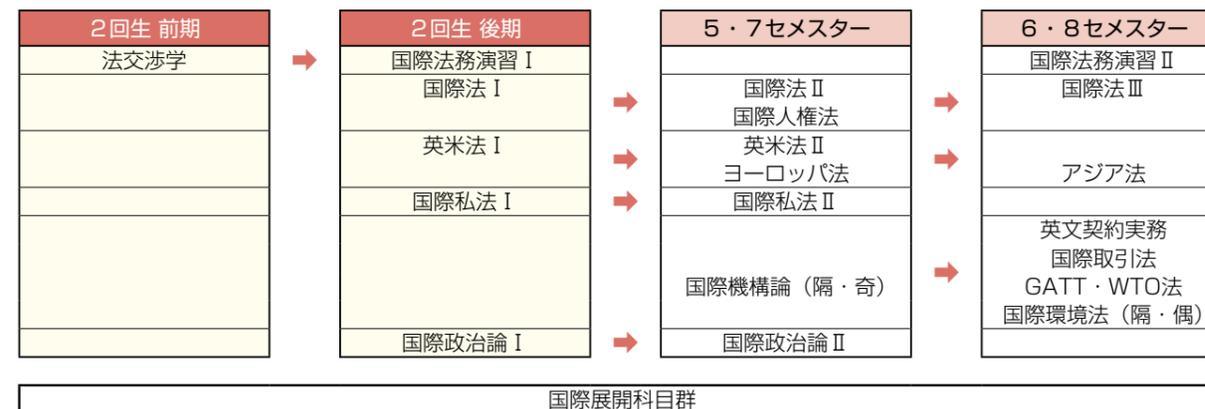


## 4 国際法務特修 専門化プログラムの紹介

この専門化プログラムは、法学・政治学の基本を学びつつ、外国語能力を鍛錬し、国際交流の経験を活用して、国際的視点をまじえた問題の法的解決能力を獲得することを目的としています。言葉を換えると、基本的な国内法とともに外国法、国際法を学び、異なる法体系の存在を理解し、国際比較の中でわが国の法律の理解をも深め、国際問題に関する専門的視野の獲得と外国語によるコミュニケーション能力の養成を図ることを目指しています。

このため、英米法、ヨーロッパ法、アジア法という外国法の科目群や国際法、国際私法、国際取引法、GATT・WTO法などの国際問題の解決を目指す科目群が配置されています。なお、法学系の専門科目は、それぞれが自己完結的に存在するものではありませんから、たとえば、国際私法や国際取引法を十分に理解するためには、民法や商法、民事訴訟法などの基本六法科目を併せて履修することも大切です。この点は、1・2回生時における科目選択において留意する必要があります。また、国際展開科目群の専門科目等が外国語によるコミュニケーション能力や論理的思考力・法学の基礎知識の向上を目指すために重視されています。

最後にぜひとも留意しておいてもらいたいことは、本プログラムでは、学生が諸種の留学プログラムを大いに活用して、そのことを通じて得た貴重な経験を学問研究や自らの進路選択に活かしていくことが予定されているということです。「国際法務演習Ⅱ」という科目はまさにそれに対応するものです。国際法務特修に所属する皆さんには、留学プログラムに積極的に応募してもらいたいと思います。



「学びマップ」には下記の5種類があります。4年間全体の「学びマップ」と、1回生から4回生時の1年間ごとの「学びマップ」です。まずは、これから4年間をどのように過ごし、卒業時にどのような自分になっていたかを考えて4年間全体の「学びマップ」を作成してみましょう。次に、各回生の初めに、その年度をどのように過ごすのかを考え、各回生の「学びマップ」を作成してみましょう。そして、各回生の終わりには、作成した「学びマップ」で1年間を振り返ってみてください。

また、「学びマップ」を作成するために役立ついくつかのツールがあります。以下にあげていますので、各自で上手く使いこなしてみてください。

### ● 「学びマップ」の種類

- ① 4年間の学びマップ .....p.12
- ② 1回生の学びマップ .....p.14
- ③ 2回生の学びマップ .....p.16
- ④ 3回生の学びマップ .....p.18
- ⑤ 4回生の学びマップ .....p.20

### ● 「学びマップ」を作るためのツール

#### ① 『法学部学びマップ』（本冊子）

2～9頁をもう一度よく読んで「自分」を振り返ってみましょう。

#### ② 『法学部学修要覧』

法学部のカリキュラムや様々なプログラムが紹介されており、学修計画を立てるうえで辞書のように活用できる冊子です。あなたが所属するカリキュラムがどのようなものなのか、どのような科目があるのか、どのようなプログラムが選択できるのかをもう一度確認してみましょう。

#### ③ シラバス

シラバスは詳細な授業計画のことです。科目名、担当教員、授業の概要、到達目標、授業スケジュール、成績評価方法等が記載されています。実際に科目を選択する際に必要な情報になります。シラバスをあらかじめ見て、どの時期にどのような科目を学ぶのか、事前にどのような予習が必要なのかを確認しましょう。

#### ④ 『海外留学の手引き』『海外留学案内』

国際教育センター（明学館1階）の窓口で配布しています。みなさんが参加できる様々な留学プログラムを紹介しています。海外での学修に関心のある人は、どんなプログラムがいつ用意されているのかを確認してみましょう。

#### ⑤ 『未来を拓く—ようこそ立命館へ』

立命館大学で学び成長し、大学生活を有意義に過ごすための重要な視点あるいはヒントがたくさん載っています。大学で何を学ぶのか、何を修得したいのかを考えると参考にしてください。

#### ⑥ 『CAMPUS DIARY』

学生生活で困ったことがあれば、CAMPUS DIARY内の“学生生活ガイド”を確認してみましょう。

4年間の学びマップ

学生証番号：

氏名：

4年間の流れ			
1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
<p>• 学修</p> <p>大学での学びの導入 専門基礎と教養的基礎の導入</p>	<p>法学リテラシー能力の修得 専門基礎科目の修得 専門化プログラム科目の学修</p>	<p>専門科目への展開</p>	<p>総合力の形成 4年間の学びの集大成 社会で通用する力の獲得</p>
<p>大学での学習の動機付けと自ら学ぶ力を身につける 論理的に思考し、主張の根拠を明確にして他者に理解してもらうための表現力を身につける</p>			
<p>• キャリア関係</p>			
<p>徐々に自分の適性を見極める 〔「夢」を考える、「なりたい自分」を考える、「何ができるか」を考える〕</p>	<p>自分の進路イメージを固める 就職・進学するための準備活動を開始する</p>	<p>自分が希望する進路に則して専門性を深める 就職・進学するための活動を開始する (就職活動を行う／高度専門職・研究職を目指して勉学を極める)</p>	<p>(就職活動を行う／高度専門職・研究職を目指して勉学を極める)</p>
<p>• 正課外活動関係</p>			
<p>上回生から教えられ、同回生と共に学んで実力を蓄える クラブ・サークルの企画・運営の基礎を学ぶ</p>	<p>クラブ・サークルの活動・運営面で主力となり、様々な課題を前進させる</p>	<p>自分が身につけた知識や経験を後輩へ伝える 自らの成長を振り返る</p>	

<p>4年間の目標</p>
<p>目標を達成するために何をやるのか (行動計画)</p>

<p>4年間の振り返り (自己評価)</p>
------------------------

# 1 回生の学びマップ

学生証番号： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

## ②初めての定期試験に向けての計画

\_\_\_\_\_

## ③夏期休暇中の目標

\_\_\_\_\_

### 学 修

4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式・オリエンテーション</li> <li>学びの選択① (学生生活目標設定シート) を提出</li> <li>1回生の履修計画を立てる (受講登録)</li> <li>前期授業開始</li> </ul>	<p>大学4年間の学びの目標を考える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>前期成績発表</li> <li>後期の履修計画を立てる (受講登録の修正)</li> <li>後期授業開始</li> </ul>

## ④前期成績発表結果を受けて後期の課題

\_\_\_\_\_

## ⑥後期の定期試験に向けての計画

\_\_\_\_\_

10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際展開科目群コース選択 (国際法務特修)</li> <li>法学部英語副専攻・全学副専攻募集</li> <li>学びの選択② (キャリア形成シート) を提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法学部ゼミナール大会</li> </ul> <p>将来の希望進路や各自の問題意識を整理する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>後期成績発表</li> <li>2回生の履修計画を立てる (受講登録)</li> </ul>

### 学生生活全般・キャリア就職

※奨学金募集については、経済支援型と成長支援型の2種類あり、主要なものについて記載しています。詳しくは学生オフィスホームページ<http://www.ritsumeai.ac.jp/scholarship/>等を確認してください。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> <li>新歓祭典</li> <li>オリエンテーション期間</li> </ul> <p>いろんなクラブ・サークルを見学して気に入ったところに入ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆成長支援型奨学金・助成金募集</li> <li>・春季立同戦 (硬式野球)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生クラス合宿</li> <li>・FPC (フッシュパーソンズキャンプ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆修学奨励奨学金募集開始 (次年度予約採用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季合宿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆成長支援型助成金募集</li> </ul>
<p>新たな友人ができる。先輩から教わる。同級生と学ぶ。 → 新しい自分を探す学生生活のはじまり。</p>					

10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季立同戦 (硬式野球)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭 (衣笠・BKC)</li> <li>・1回生のための進路・就職セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日本学生支援機構奨学金継続手続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆次年度奨学金募集開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季合宿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生歓迎準備</li> </ul>
<p>先輩に教えられながら企画 → 発想力・構想力</p>			<p>もうすぐ上回生。企画準備。 → 大学生活に慣れる。</p>		

## ①入学時の目標

\_\_\_\_\_

## ⑤将来の進路・目標

\_\_\_\_\_

## 前期セメスターを振り返って(自己評価)

\_\_\_\_\_

## 1年間を振り返って(自己評価)

\_\_\_\_\_

※上記のスケジュールは予定です。変更になることがありますので注意してください。また、上記以外にも様々な取組みがありますので、積極的に情報収集を行なってください。



3 回生の学びマップ

学生証番号：

氏名：

・学修（3回生で身に付けておくべきこと：思考の深まり、学習を通して理解したことを書くことを通して可視化する）

4月	前期授業開始 学修の振り返りシート（左頁）	5月	具体的な進路を選択するにあたって問題意識を整理する	6月	定期試験	7月	定期試験	8月	前期成績発表 後期の履修計画を立てる（受講登録の修正） 後期授業開始	9月	学修の振り返りシート（右頁）	10月	具体的な進路を選択するにあたって、前期での学修を振り返り、問題意識を再整理する	11月	卒業研究・論文受講希望の有無を申請（Web申請） 法政大学フェスティバル大会	12月	定期試験 専門演習レポートを提出	1月	1月	2月	3月	4月
----	--------------------------	----	---------------------------	----	------	----	------	----	--	----	----------------	-----	---	-----	---	-----	---------------------	----	----	----	----	----

・キャリア関係（3回生で身に付けておくべきこと：自分が希望する進路に則して専門性を深める）

4月	専門演習においてプロジェクト（リサーチ）を選出	5月	進路就職ガイダンス開催（JAS） キャリア（キャリア）企画PT企画開始	6月	しごと研究ゼミナール 学内OB・OG協働会	7月	インターンシップ（長期）	8月	インターンシップ（長期）	9月	インターンシップ（長期）	10月	就職ABC（自分なキャリア！） シヨクショウ 進路就職ガイダンス開催 しごと研究ゼミナール	11月	就職ABC（自分なキャリア！） シヨクショウ しごと研究ゼミナール	12月	インターンシップ（短期） 就職ABC（自分なキャリア！） シヨクショウ しごと研究ゼミナール	1月	民間就職直前ガイダンス	2月	学内OB・OG協働会 インターンシップ（短期・長期）	3月	エントリースタート 学内企業研究会 公務員業務説明会
----	-------------------------	----	--	----	--------------------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	-----	--	-----	---	-----	---	----	-------------	----	-------------------------------	----	----------------------------------

・正課外活動関係（3回生で身に付けておくべきこと：自分が身に付けた知識や経験を後輩へ伝える）

4月	オリエンテーション期間 新歓祭典	5月	春季立回戦（硬式野球） 成長支援型奨学金 助成金募集	6月		7月	修学奨励奨学金募集開始 （在学率維持用）	8月	夏季合宿	9月	成長支援型助成金募集	10月	秋季立回戦（硬式野球）	11月	学園祭（衣笠・BK）	12月	日本学生支援機構奨学金 継続手続	1月	次年度奨学金募集開始	2月	春季合宿	3月	新入生歓迎準備
----	---------------------	----	----------------------------------	----	--	----	-------------------------	----	------	----	------------	-----	-------------	-----	------------	-----	---------------------	----	------------	----	------	----	---------

※奨学金募集については、主要なものについて記載しています。詳しくは学生オフィス（衣笠）ホームページ等を確認してください。

※上記のスケジュールは予定です。変更になることがありますので注意してください。また、上記以外にも様々な取組みがありますので、積極的に情報収集を行なってください。

3 回生の目標

目標を達成するために何をするのか（行動計画）

3 回生の振り返り（自己評価）

4 回生の学びマップ

学生証番号：

氏名：

・学修（4回生で身に付けておくべきこと：思考の深まり、学習を通して理解したことを書くことを通して可視化する）

4月	前学期授業開始	7月	定期試験	9月	後期授業開始 後期の履修計画を立てる(必修履修の 前学期成績発表)	10月		11月		12月		1月	定期試験 卒業論文提出	2月		3月	卒業式 卒業記念発表
----	---------	----	------	----	---	-----	--	-----	--	-----	--	----	----------------	----	--	----	---------------

・キャリア関係（4回生で身に付けておくべきこと：卒業後の「なりたい自分」を考える）

4月	学内企業説明会 エントリーシート受付スタート ※企業によるスケジュールは異なります	5月	筆記試験スタート 学内企業説明会 学内OB・OG訪問会	6月	学内企業説明会	7月	学内企業説明会	8月	選考(面接)スタート ※企業によるスケジュールは異なります 大学院入試出願受付 ※大学院によるスケジュールは異なります 学内企業説明会	9月	大学院入試 ※大学院によるスケジュールは異なります	10月	オンラインバスケットリーグ	11月	オンラインバスケットリーグ	12月	オンラインバスケットリーグ	3月	大学院入試 ※大学院によるスケジュールは異なります オンラインバスケットリーグ
----	---	----	-----------------------------------	----	---------	----	---------	----	---	----	------------------------------	-----	---------------	-----	---------------	-----	---------------	----	---

・正課外活動関係（4回生で身に付けておくべきこと：自らの成長を振り返る）

4月	オリエンテーション期間 新歓祭典	5月	春季立回戦(体育競技) ◆成長支援型選考会 助成金募集	6月		7月		8月	夏季合宿	9月	◆成長支援型助成金募集	10月	秋季立回戦(体育競技)	11月	学園祭(学生BKC)	12月		3月	卒業式
----	---------------------	----	-----------------------------------	----	--	----	--	----	------	----	-------------	-----	-------------	-----	------------	-----	--	----	-----

進路選択・就職活動期  
→学生生活の振り返り。身についた力は？

※奨学金募集については、主要なものについて記載しています。詳しくは学生オフィス(依笠) ホームページ等を確認してください。

※上記のスケジュールは予定です。変更になることがありますので注意してください。また、上記以外にも様々な取組みがありますので、積極的に情報収集を行なってください。

4 回生の目標

目標を達成するために何をするのか（行動計画）

4 回生の振り返り（自己評価）



## 2014年度入学生 学びの選択② (キャリア形成シート)

- ・ manaba+R上で入力し、提出してください。以下の記述欄は、下書き用として使ってください。
- ・ 入学してから、みなさんは大学で様々なことを学び、経験したことと思います。大学生活を通じて、みなさんは自身のキャリアをどのように築くべきか、おりにふれて考えたかもしれません。そこで、2回生になる前に、もう一度、将来の進路希望や各自の問題意識を確認してみましょう。こうした作業は、2回生以降の学習をより実りあるものにするうえで非常に重要です。しっかり入力して提出するようにしてください。

学生証番号		前期：基礎演習 クラス／担当教員名
フリガナ氏名		クラス： 担当教員：先生
		後期：小集団 クラス／担当教員名
電話	携帯 ( ) -	クラス： 担当教員：先生
E-MAIL	@ ※ 連絡の取れるアドレスを記入してください。	
1. 入学時の希望進路 (○印をつけて下さい) ※複数回答可		
① 民間企業 ② 法科大学院進学・法曹 ③ 大学院進学 ④ 国家公務員 (総合・一般) ⑤ 地方公務員 ⑥ 司法書士 ⑦ 税理士 ⑧ 未定 ⑨ その他 ( )		
2. 現時点 (1回生11月時点) の希望進路 (○印を記入。②の場合上記選択肢から該当するものを選択)		
① 入学時と同じ ② 入学時から変化【内容を上記から選択：】		
③ 変化した場合その理由：		
3. これまで受講してきた科目で興味関心の高かった科目は何ですか。その理由は何ですか。		
科目名：		
理由：		
4. これからどんな科目を学習したいと考えていますか (複数可)。またその理由があれば記述してください。		
科目名：		
理由：		
科目名：		
理由：		
科目名：		
理由：		
7. 上記6について教員との面談が可能です。相談を希望「する」「しない」のどちらかに○をし、面談を希望する場合は相談したい教員名 (基礎演習担当者名等) を記述してください。 ※面談については必ずしも希望教員との面談が可能ではないことをご了承ください。		
面談希望 ⇒            する ・ しない            【面談希望教員：            先生】		

5. 現時点で将来の進路について考えていることについて記述して下さい。

6. 大学での学習について悩んでいることがあれば自由に記述して下さい。  
※事務手続き等に関する質問は、随時、法学部事務室窓口で受付します。

7. 上記6について教員との面談が可能です。相談を希望「する」「しない」のどちらかに○をし、面談を希望する場合は相談したい教員名 (基礎演習担当者名等) を記述してください。  
※面談については必ずしも希望教員との面談が可能ではないことをご了承ください。

面談希望 ⇒            する ・ しない            【面談希望教員：            先生】





## 2014年度入学生 学びの選択⑤ (キャリアシート)

・左頁(問1~6)は3回生の4月、右頁(問7~12)は3回生の10月にmanaba+R上で入力し、提出してください。  
 以下の記述欄は、下書き用として使ってください。  
 ・このシートは、3回生のみなさんが将来の進路を選択するにあたって各自の問題意識を整理し、専門演習を初め学部での学習で得たことに確信を持って進路選択を行うための資料として下さい。

学生証番号	_____	専門演習 クラス／担当教員名
フリガナ氏名	_____	クラス 先生
電話番号	( ) - _____	クラブ・サークル

☆この左頁(問1~6)は前期開講時に記入(選択式は○)してください。

1. 入学時の希望進路 *複数選択可	2. 現時点の希望進路 *複数選択可
① 民間企業 ② 法科大学院進学・法曹 ③ 大学院進学 ④ 国家公務員(総合・一般) ⑤ 地方公務員 ⑥ 司法書士 ⑦ 税理士 ⑧ 未定 ⑨ その他(具体的に: )	① 民間企業 ② 法科大学院進学・法曹 ③ 大学院進学 ④ 国家公務員(総合・一般) ⑤ 地方公務員 ⑥ 司法書士 ⑦ 税理士 ⑧ 未定 ⑨ その他(具体的に: ) ⑩ 迷っている(理由: )
3. 進路を実現するにあたって現在、具体的に取り組んでいること	4. これまでの大学生活を通して自分の成長が実感できること・身につけることができたと思えること *3つ回答可
① キャリアオフィス(HP含む)で情報を得る ② 先輩から情報を得る ③ 就職情報誌等で情報を得る ④ エクステンション・予備校等に通う ⑤ 授業・演習での学習 ⑥ インターンシップに参加 ⑦ 課外活動 ⑧ 特になし ⑨ その他(具体的に: )	① 幅広い知識や視野 ② 法学部専門分野の知識 ③ 学習習慣 ④ 積極性・主体性 ⑤ 法的思考力 ⑥ コミュニケーション・プレゼンテーション能力 ⑦ 社交性・協調性 ⑧ 自己管理能力 ⑨ 語学力 ⑩ 文章力・レポート作成能力 ⑪ その他(具体的に: )
5. 今年度、大学生活を通して力をつけたいと思っていること *3つ回答可	6. 進路・就職について何か考えていること
① 幅広い知識や視野 ② 専門分野の知識・演習学習 ③ 試験学力(法曹・公務員) ④ 積極性・主体性 ⑤ 法的思考力 ⑥ コミュニケーション・プレゼンテーション能力 ⑦ 社交性・協調性 ⑧ 自己管理能力 ⑨ 語学力 ⑩ 文章力・レポート作成能力 ⑪ その他(具体的に: )	
<メモ>	

☆この右頁(問7~12)は後期開講時に記入(選択式は○)して下さい。

7. 夏期休暇をどのように過ごしたか *複数回答可	8. 現在の希望進路
① エクステンション講座 ② 学外の専門学校通学(外国語を含む) ③ 自宅で受験勉強 ④ 自習 ⑤ アルバイト ⑥ クラブ・サークル・自主活動 ⑦ 進路に関わる活動(インターンシップ、自己分析等) ⑧ 留学 ⑨ その他(具体的に: )	① 民間企業 ② 法科大学院進学・法曹 ③ 大学院進学 ④ 国家公務員(総合・一般) ⑤ 地方公務員 ⑥ 司法書士 ⑦ 税理士 ⑧ 未定 ⑨ その他(具体的に: ) ⑩ 迷っている(理由: )
9. 3回生前期を終えて学習上や学生生活で深められたこと *3つまで回答可	10. 前項を踏まえて後期に取り組みたいと考えていること
① 幅広い知識や視野 ② 専門分野の知識・演習学習 ③ 試験学力(法曹・公務員) ④ 積極性・主体性 ⑤ 法的思考力 ⑥ コミュニケーション・プレゼンテーション能力 ⑦ 社交性・協調性 ⑧ 自己管理能力 ⑨ 語学力 ⑩ 文章力・レポート作成能力 ⑪ その他(具体的に: )	
11. 希望進路の実現に向けて具体的に取り組んでいる(取り組もうとしている)こと *複数回答可	12. 進路選択にあたって学部やキャリアセンターへの要望、現時点の悩みなど
① 公務員受験のための学習 ② 法科大学院受験のための学習 ③ 資格試験取得のための学習 ④ 正課の学習 ⑤ キャリアセンター主催行事への参加 ⑥ 自己分析、業界研究 ⑦ クラブ・サークル・自主活動 ⑧ その他(具体的に: )	
<メモ>	

